

JGFA NEWS

FRESHWATER, SALTWATER AND FLY FISHING
FLOODING ISSUE



東京ベイ・シーバス GF 新フォーマット

New Format, Tokyo Bay Seabass Game Fest

記録報告

New Japan/World Records

IGFAルールクイズ解説

IGFA Rule Quiz Explained

JIBT レポート

Japan Int'l Billfish Tournament Report

And more



太平洋や日本海の海水温が上がり、大量の水蒸気が洋上の空気に含まれるようになると、それが山脈に吹き付けて冷えたときには大量の雨となります。今年もまた、線状降水帯が幾度となく発生し、大きな害を被った地域が多数ありました。

私もたまたま、8月の末に秋田県北部にいましたが、その時の川の状態は恐ろしいものでした。ココアのような色の水が橋に打ち付け、巨大な倒木が次から次へと流れています。地元の人も「こんなことになるんだね…」と放心したようにおっしゃっていたのが耳に残ります。林道も、多くの場所で崩落し通行止めになりました。

それでも10日ほどすると平水に近くなりましたが、用心しながら入れる川に入つてみると、いつものポイントに魚は入っています。あの渦流をどうやってやりすごしたのか想像すらできませんが、たくましい野生を感じました。それと同時に思ったことは、人間が生み出す釣獲圧の大きさです。みなさんも体験がありませんか、道が崩れて自動車が通れなくなった林道の先は、歩くことさえ厭わなければよい釣り場が生まれていることが多い。もともとそれほど生産性が高いとは言えない日本の川で、大きなクーラーボックスに魚をたくさん詰め込んで帰りたい人が訪れなくなると、魚は戻って来ようとする。考えさせられることが多い秋です。

ジャパンゲームフィッシュ協会
専務理事 東 知憲



【JGFA沖釣りサーキット2025・第1戦マゴチ大会】

沖釣りもIGFAルールで、という服部善郎名人（JGFA名誉会員）の呼びかけで2005年から始まったJGFA沖釣りサーキット。2025年の開幕戦は、良型狙いのマゴチ大会！今年も神奈川県金沢八景「一之瀬丸」で開催し、2船での出船となりました。IGFAルールやバグリミットを守りながら、総勢29名が穏やかな天候の中、楽しく釣りを楽しみました。このレポートでは、A船の様子を中心にお伝えします。

【大会要項】

- ▼開催日：2025年6月1日(日) 出船7:00 沖上がり14:30
- ▼場所：神奈川県金沢八景「一之瀬丸」
- ▼審査：全長40cm以上のマゴチ3尾の総重量(それ以下は対象外、同重量の場合は年齢が高い人優位)
- ▼ルール：IGFAルールに準ずる(電動リール、クッションゴム不可。ハリ数は2本までなど)
- ▼その他：全長40cm以上のマゴチ3尾まで、他魚種含め10尾まで(何尾釣ってもかまいませんが、持ち帰りはバグリミットを厳守)
- ▼参加人数：29人(エビ餌26名／ルアー3名)
- ▼写真提供：伊達志織さん、市原岳洋さん、福永雄海さん

【当日の状況(A船)】

朝7時に定刻通り出船し、木更津沖へ。A船は8時半にポイントへ到着し、水深13mの漁礁周りで釣り開始。潮の流れは適度で釣りやすい状況。スタート直後、左舷中央の平井さんに40cmのマゴチがヒット！順調なスタートを切りましたが、その後はアタリはあるものの、針掛かりさせられずバラシが続出。9:15 右舷側で平澤さんと浅野さんが連続ヒット！さらに右舷の久保さん、古宮さん親子にも良型が続きました。10:50、右舷中央の釣り座で黙々と釣りをしていた渡辺さんの竿に強烈なアタリ！「でっかいぞ！」と船長も興奮しながらタモを準備し、上がったのはこの日最大となる57cm、1.3kgのマゴチ。渡辺さんは「初めて釣ったので、とてもうれしいです。」と満面の笑み。その後も、今回初参加の祐子さんもキーパーサイズをゲット！午後12時過ぎには木更津沖から八景沖へ移動し、さ

らにチャンスを狙う展開に。この日すでに4匹釣っていた平井さんが1匹追加、さらに左舷前方の亀岡さんにも待望のマゴチが来ました。シリヤケイカにエサを食い逃げされたり、サメのヒットもあったりと、思わず展開が続出！

【結果】

全長40cm以上のマゴチを対象に、3尾の合計重量を競いました。
優勝：平井朋さん(1.75kg／3尾)
2位：福永雄海さん(1.45kg／2尾)
3位：古宮武さん(1.40kg／2尾)
※同重量の場合は年齢が高い方が優先されます。入賞された3名の方には賞状をお渡しいたしました。おめでとうございます！

【初参加の方も安心！】

- ◆釣り方のアドバイス → 参加者同士で情報交換しながら、釣りのコツを学ぶことが可能
- ◆適切なポイント選び → 経験豊富な船長が状況を見極め、釣果が期待できるポイントへ案内
- ◆魚の持ち帰りサポート → 釣った魚の処理やバグリミットについての知識を事前に共有

JGFA沖釣りサーキットは、初心者から経験者まで楽しめる大会です。今回も初参加の方が多く、船長やスタッフの皆さんのサポートを受けながら釣りに挑戦し、見事にキーパーサイズを釣り上げる場面もありました。次は10月のタチウオ大会！次回もIGFAルールやバグリミットを守りながら、沖釣りを楽しむましょう。皆様のご参加をお待ちしております。専用申込ページを設置しましたのでご活用ください。

- ◆第2戦タチウオ大会 10月19日(日)神奈川県
金沢八景「一之瀬丸」
- ◆第3戦カワハギ大会 11月15日(土)神奈川県・小網代
「丸十九」
- ◆第4戦ヒラメ大会 12月7日(日)千葉県・飯岡
「隆正丸」



東京ベイ・シーバスゲーム・フェスティバル 新フォーマットで今秋開催！

ルアーやフライをよく追い、すばらしいファイトを展開し、身近な釣り場にも数多く生息する。そんな魚種は世界を見渡してみても多くありませんが、スズキが日本を代表する海のライトタックル・ゲームフィッシュであるという点に異論を挟む人はいないと思います。このスズキを対象としたトーナメントを開催し、資源保全のためのデータ収集にも貢献しようという欲張りなビジョンを持って1985年に始まったのが「東京ベイ・シーバスゲーム・フェスティバル」です。実行委員長の福永雄海さんに、話を聞きました。

TOKYO BAY SEABASS GAME FESTIVAL

JGFA (JG) 大会の歴史に関して、すこしご説明いただけませんでしょうか？どういう思いでこれが始まり、どれくらいの年月が経過していまに至るのか、といったことです。

福永雄海(YF) 今から40年前に始まりました。まだ一般的に知られていました、アマチュアによる標識放流タグ＆リリース・プログラムを広める意図もあり、協会の主催イベントとして立ち上りました。その頃は、船からのシーバス釣りもあまり一般的ではありませんでしたから、新しい楽しみ方のご提案でもありました。

JG 3回目からは、クラブによる共催になったんですよね？

YF そうです。初代JGFA会長だった大西さんの肝いりで、若林務さんや古山輝夫さんがいらしたレッドヘッダーズと、私の父が在籍していた横浜ビルフィッシュクラブが力を合わせて運営しました。レッドヘッダーズはメソッドの研究と人集め、横ビルはボートの準備・提供という形で、得意な分野をそれぞれカバーしながら、すこしづつ成長していきました。

JG 大会というと会場確保がつねに課題となりますますが、初期はどこをお使いになつたんですか？

YF 川崎の長八です。釣り船と屋形船の両方を、いまだにやっていますね。初期は、乗り合い船形式でしたよ。チャーターできる小さなボートは、ほとんどありませんでしたから。

JG それから、ボートオーナーたちに声をかけてライトタックルの釣りをやつ

YF ライトタックル関係の事業を強化していきたいという気持ちは強くあります。しかしオフショアの大会は対象魚の面でもなかなか難しいので、やはり湾内のスズキだろう。タグ＆リリースしたスズキは累計1万尾を超ましたし、データとしてはじゅうぶん出揃ったと思いますから、40周年を機に、新しいフォーマットで主催事業として行おうということです。

JG パーブレスフックを使用したキャッチ＆リリースは必須、タグはオプションというわけですね。

YF そのとおりです。新しい参加者も集まっています。関東以外からも来られますよ。外国籍の参加者も歓迎です。

JG この大会の歴史や、ジャパンゲームフィッシュ協会のことを知らない人たちも来てほしいですね。ビッグゲーム・トローリングだけではなくライトタックルでの釣りも、協会事業の柱です。釣りと魚のことが大好きな人が多方面から集まって活動していますよ、というのを打ち出したいと考えます。次に、今年から大きく変わる内容を教えていただけますか？

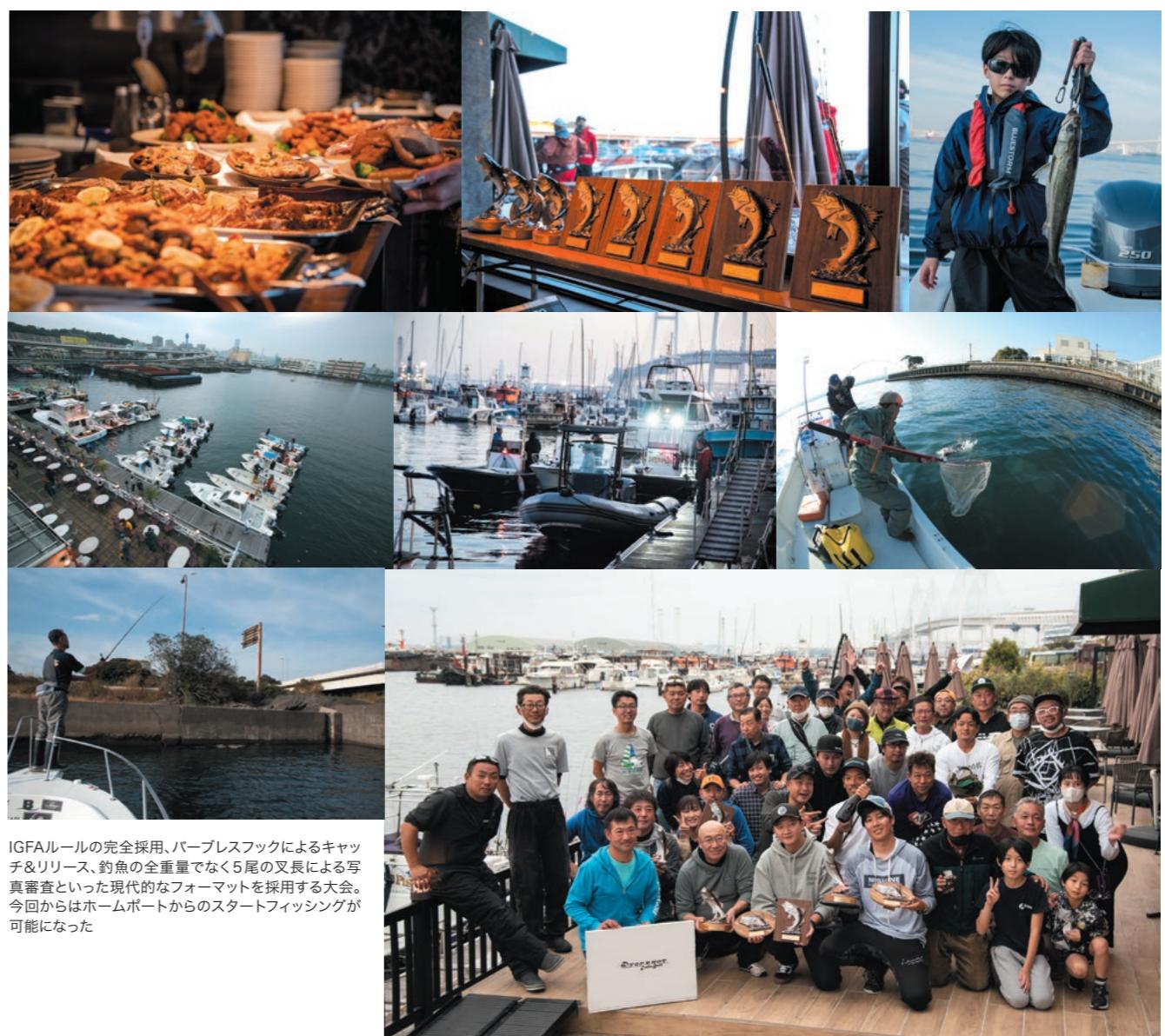
YF スタート形式が変わります。これまで朝に本部に集合し、そこから一斉にスタートフィッシングだったのですが、遠くの方は夜間航行を余儀なくされ、安全面がじゅうぶんに確保されているとは言えませんでした。そこで、朝は各ポートやマリーナの桟橋から定時スタートにしました。所定の時刻になったら、LINEで現在位置を報告してもらいます。釣りが終わったら、帰港後に陸路で会場まで来ていただいて、表彰式とパーティーを行います。

JG インターネットツールが存在するから可能になったフォーマットですね。

YF 事前に、キャプテン会議も開催することにしました。ボートの船長ではなく、釣り人サイドの各チームキャプテンです。基本的にはオンライン会議の方式で行い、大会で遵守るべき重要事項などをオリエンテーションします。

JG なるほど。定時報告は1回ですか？

YF その通りです。東京湾を9つに分割して、エリアを報告してもらいます。釣りが終わったら寄港報告と同時に、スコ



IGFAルールの完全採用、パーブレスフックによるキャッチ＆リリース、釣魚の全重量ではなく5尾の叉長による写真審査といった現代的なフォーマットを採用する大会。今回からはホームポートからのスタートフィッシングが可能になった

アシートの写真も送付してもらいます。実は、コロナのパンデミックのとき、必要に迫られて、大会場に集合せず各ポートからスタートするという形式を1回試しています。よい予行演習になりました。

JG 長年この大会に関わってこれられて、東京湾におけるスズキの資源に関する昨今の肌感はどうですか？ 私は、やっぱり減ってきてると思いますけれど…

YF 大会の釣獲データはずっと見ているんですが、昔といまは釣り方も変わってきていて、同じタイプの魚を釣っている気はしません。しかしそれを踏まても、数は減っているし大型の魚が釣れなくなっていますね。だいたい70センチメートル止まりとか。

JG うぜん、大会では一発大きいのを狙って戦略を立てると思うんですが、それでも釣れにくいかどうか？

YF 人的なプレッシャーで年々下していることもあると思いますけれど、そうですね。そこにいるすべての魚が釣れるわけではないので厳密には言えませんが、全体の大さ構成も、サイクル的に入れ替わります。フッコクラスが多い年があるとして、数年経つとやはりスズキクラスも増える。全体的な底上げは起きないようです。

JG 中期的には、どんな大会に仕上げていきたいですか？

YF まずは参加者を3桁にしたいです。その次のビジョンもありますよ！ しかし何より、「おもしろい大会を東京湾

でやってるよ！」という口コミをまた盛り上げていきたいです。

JG 私たちアングラーができる貢献として、データの収集はぜひ継続してください。キャッチ＆リリースも、言葉のレベルでは一般社会まで浸透していましたが、魚を眼の前にした現場では全然まだ。頑張っていく必要があると思います。なにぞ引き続き、楽しいトーナメント作りをよろしくおねがいします。

2025年11月9日(日)に開催される第41回東京ベイ・シーバスゲーム・フェスティバルの詳細は、「東京ベイ」「シーバス」のキーワード検索で出てくるウェブサイトに掲載されています。

<https://tokyobayseabass.com>

NEW JAPAN RECORD GALLERY

WR =世界記録
W =女性
J =ジュニア男性
JW =ジュニア女性
CR =キャッチ&リリース
TR =タグ&リリース
AL =オールタックル・
レングスレコード
FAL =オールタックル・
フライ・レングスレコード

※アカメ、イトウなどの環境省レッドデータブック記載種は、リリース前提での記録申請受け付となります。

※コクチバスなどの外来魚の申請は外来生物法の規定にそって受け付けます。外来生物法では規定していないキャッチ&リリースについては、各都道府県でこれを禁じている水域もあり、持ち出しを禁止しているケースもありますので、これらに従うことといたします(2016年7月5日JGFA理事会決定)。

※タイリクスズキに関しては、オールタックル部門および10ポンドシーバスクラブ、年間フィッシングコンテストの対象として申請を受け付けることになりました(2020年4月1日より)。

お願い: 記録申請時は、書類、紙焼き写真とともに高画質の写真データもご提出を!

大型魚のデータをできるだけ正確に保存するためですので、ご協力をお願いいたします。メディアの形は問いません。

OFF SHORE <船からの釣り>

<ハマエフキン> EMPEROR, spangled / *Lethrinus nebulosus*

●M-15kg(30lb)クラス ●1.75kg ●沖縄県本部沖 ●2025-5-27 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●りょう丸

<ヒラメ> FLOUNDER, olive / *Paralichthys olivaceus*

●M-6kg(12lb)クラス ●5.45kg ●千葉県銚子沖 ●2025-6-19 ●福永 雄海 ●横浜ビルフィッシュクラブ ●第一進丸

<メジナ> BLACKFISH, Largescale / *Girella punctata*

●M-15kg(30lb)クラス ●0.58kg ●千葉県館山市布良瀬 ●2025-8-18 ●熊木 隆 ●レギュラー会員 ●第八安田丸

OFF SHORE JUNIOR <船からの釣り・ジュニア>

<アラ> ARA / *Nippon spinosus*

●M-10kg(20lb)クラス ●2.00kg ●山形県飛島沖 ●2025-8-10 ●木下 翔生 ●ANNET ●はまなす



浅野 俊吾
<ハマエフキン>
着底してすぐに、引ったくる
ような当たりがあり即合
わせ! 型のわりに引きが強力
で、取り込みまでのやりとり
が楽しめました



福永 雄海 <ヒラメ>
5.45kg
大きいサイズがよく釣れているようでしたので、日本記録が狙え
るかも…と出船。しかし1日目はなにもなく終了。
あまりに悔しいので急遽翌日に再チャレンジ。昨日とは大違い
でなぜか私だけ大型ばかり! 海の神様ありがとうございました!



熊木 隆 <メジナ>
0.58kg
サメの猛攻に遭い、慌てて船に引き抜きました

FRESHWATER FISHING <淡水の釣り>

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idella*

●M-60kg(130lb)クラス ●21.69kg ●埼玉県新河岸川 ●2025-6-10 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idella*

●M-37kg(80lb)クラス ●26.49kg ●埼玉県新河岸川 ●2025-6-28 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

<チャネルキャットフィッシュ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●W-3kg(6lb)クラス ●1.50kg ●茨城県常陸利根川 ●2025-8-17 ●中井 遥子 ●ファミリー会員

<チャネルキャットフィッシュ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●W-4kg(8lb)クラス ●0.65kg ●茨城県常陸利根川 ●2025-8-17 ●中井 遥子 ●ファミリー会員

<チャネルキャットフィッシュ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●W-2kg(4lb)クラス ●0.50kg ●茨城県常陸利根川 ●2025-8-17 ●中井 遥子 ●ファミリー会員

<チャネルキャットフィッシュ> CATFISH, channel / *Ictalurus punctatus*

●W-6kg(12lb)クラス ●0.90kg ●茨城県常陸利根川 ●2025-8-17 ●中井 遥子 ●ファミリー会員



竹内 尚哉 <ソウギョ> 26.49kg
酷暑予報の中、最干潮となる状況で渾身のショット流しが決まる
と本命が降臨。23分間におよぶバトルの末えりんげ、言う事なし
の釣果となった



中井 遥子 <チャネルキャットフィッシュ> 1.50kg
小さい個体だけしか釣れない中、ドラグが何度も出たので、パレン
いかヒヤヒヤしつつ、楽しみながらファイトしました

FRESHWATER FLY FISHING <淡水のフライフィッシング>

<オオクチバス> BASS, largemouth / *Micropterus spp.*

●M-8kg(16lb)クラス ●3.10kg ●滋賀県琵琶湖 ●2025-4-23 ●奥山 文弥 ●フィッシュ&フィンズ ●ウィザード330

<ナマズ> CATFISH, amur / *Silurus asotus*

●M-10kg(20lb)クラス ●1.90kg ●広島県沼田川水系 ●2025-5-24 ●田村 純一 ●レギュラー会員

<ハクレン> CARP, silver / *Hypophthalmichthys molitrix*

●M-8kg(16lb)クラス ●10.15kg ●茨城県利根川 ●2025-6-1 ●奥山 文弥 ●フィッシュ&フィンズ



田村 純一
<ナマズ> 1.90kg
流れ込みで落ちパケでした



ALL TACKLE <オールタックル日本記録>

<コクチバス> BASS, smallmouth / *Micropterus dolomieu*

●オールタックル ●3.66kg ●福島県猪苗代湖沖合水深2.5mシャローフラット ●2025-5-23 ●中島 則昭 ●レギュラー会員 ●CX20

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idella*

●オールタックル ●26.49kg ●埼玉県新河岸川 ●2025-6-28 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員

<チカメエチオピア> POMFRET, lustrous / *Eumegistus illustris*

●オールタックル ●4.20kg ●沖縄県西表島上原沖 水深530m ●2025-6-7 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●うみ日和・安漁丸III

<ハクセイハギ> FILEFISH, whitespotted / *Cantherhines dumerilii*

●オールタックル ●0.80kg ●東京都八丈島南原千疊岩海岸 ●2025-6-28 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●みなみ丸II

<オジロバラハタ> LYRETAIL, white-edged / *Variola albimarginata*

●オールタックル ●1.40kg ●鹿児島県喜界島手久津久沖水深80m ●2025-6-26 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●天人菊

<ヒレグロハタ> GROUPER, blacksaddle / *Epinephelus howlandi*

●オールタックル ●1.35kg ●鹿児島県喜界島沖水深80m ●2025-6-28 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●天人菊

<ヒトミハタ> GROUPER, greasy / *Epinephelus tauvina*

●オールタックル ●1.30kg ●鹿児島県喜界島沖水深80m ●2025-6-28 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●天人菊

<フエダイ> SNAPPER, star / *Lutjanus stellatus*

●オールタックル ●2.50kg ●鹿児島県喜界島沖水深80m ●2025-6-28 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●天人菊

[日本記録] 2025年7月～2025年9月 JGFA認定日本記録(抜粋)

WR =世界記録
W =女性
J =ジュニア男性
JW =ジュニア女性
CR =キャッチ&リリース
TR =タグ&リリース
AL =オールタックル・
レングスレコード
FAL =オールタックル・
フライ・レングスレコード

<サザナミトサカハギ> UNICORNFISH, bignose / *Naso vlamingii*

●オールタックル ●0.90kg ●鹿児島県喜界島沖水深80m ●2025-6-28 ●浅野 法子 ●ファミリー会員 ●天人菊 W

<ウケクチウグイ> UKEKUCHI-UGUI / *Pseudaspis nakamurai*

●オールタックル ●1.18kg ●新潟県阿賀町阿賀野川 ●2025-6-10 ●高光 康仁 ●レギュラー会員 CR

<フサギンポ> FUSAGINPO / *Chirolophis japonicus*

●オールタックル ●0.55kg ●北海道日高沖 水深30m ●2025-7-6 ●坂本 幸博 ●終身会員 ●たか丸

<テンガハギモドキ> UNICORNFISH, sleek / *Naso hexacanthus*

●オールタックル ●0.55kg ●鹿児島県屋久島一湊灯台下 ●2025-7-14 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員

<フエダイ> SNAPPER, star / *Lutjanus stellatus*

●オールタックル ●2.70kg ●口永良部島口永良部港沖水深40m ●2025-7-11 ●浅野 法子 ●ファミリー会員 ●龍仙丸 W

<ヨスジフエダイ> SNAPPER, common blueline / *Lutjanus kasmira*

●オールタックル ●0.70kg ●口永良部島口永良部港沖水深40m ●2025-7-11 ●浅野 法子 ●ファミリー会員 ●龍仙丸 W

<ヨスジフエダイ> SNAPPER, common blueline / *Lutjanus kasmira*

●オールタックル ●0.65kg ●口永良部島口永良部港沖水深40m ●2025-7-11 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●龍仙丸

<クマドリ> TRIGGERFISH, orange-lined / *Balistapus undulatus*

●オールタックル ●0.50kg ●口永良部島口永良部港沖水深30m ●2025-7-10 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●龍仙丸

<キツネベラ> HOGFISH, tarry / *Bodianus bilunulatus*

●オールタックル ●1.10kg ●口永良部島口永良部港沖水深30m ●2025-7-10 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●龍仙丸

<アゴハタ> SOAPFISH, bearded / *Pogonoperca punctata*

●オールタックル ●0.50kg ●口永良部島口永良部港沖水深40m ●2025-7-11 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●龍仙丸

<メガネハギ> TRIGGERFISH, bridled / *Sufflamen fraenatum*

●オールタックル ●0.90kg ●口永良部島口永良部港沖水深40m ●2025-7-11 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●龍仙丸

<ヨゴレアオダイ> SNAPPER, dirty ordure / *Paracaesio sordida*

●オールタックル ●1.10kg ●沖縄県今帰仁沖 水深80m ●2025-7-30 ●浅野 俊吾 ●ファミリー会員 ●りょう丸

<キタノクロダラ> COD, schmidt's / *Lepidion schmidti*

●オールタックル ●2.85kg ●神奈川県真鶴沖 水深1230m ●2025-8-9 ●西野 勇馬 ●ファミリー会員 ●H2O

ALL TACKLE JUNIOR <オールタックル・ジュニア>

<アラ> ARA / *Nippon spinosus*

●M-10kg(20lb)クラス ●2.00kg ●山形県飛島沖 ●2025-8-10 ●木下 煙生 ●ANNET ●はまなす J



中島 則昭 <コクチバス 3.66kg>

水深2.5mに沈んでいるオガについていたバスを発見。サカマグシャッド2インチのダウンショットリグを鼻先に落としたところヒット。プロロ3ポイントなので無理せずトラクを効かせ4分程でネットインしました



坂本 幸博 <チカメエチオビア 4.20kg>
2回目の投入直後にヒットし、一荷で釣れていったようだが、残り50m程で軽くなり今回申請の1匹だけが上がってきた。数日後、右手首に痛みと右腕にしびれが来てしましました



浅野 俊吾 <オジロバラハタ 1.40kg>
ボトムでヒットしてから重く、強い引きが続ぎ、取り込みまでの時間を楽しめました



浅野 法子 <サザナミトサカハギ 0.90kg>
着底してすぐエサを引ったくるような当たりがあり即合せ!型のわりに引きが強く、取り込みまでのやりとりが楽しめました



高光 康仁 <ウケクチウグイ 1.18kg>
増水によりポイント選びで苦労しましたが、遠征最終日に逢えました



坂本 幸博 <フサギボ 0.55kg>
二日連続で同じ船に乗ってフサギボを狙うもカレイばかり。エサ釣りよりひとつテンヤの方が楽しくなっていました。思いのほかロッドを叩く魚がヒット。浮かせて見たら待望のフサギボだった



浅野 法子 <エダイ 2.70kg>
強烈なあたりの直後の強烈な引きに耐え、根に潜られないように慎重にやりとり。途中何度も引き込まれ、取り込みまでドキドキしました



浅野 俊吾 <キツネベラ 1.10kg>
カワハギ系ともエフキ系とも違う引きなので顔を見るのが楽しみでした。キツネベラは初めて釣った魚です



西野 勇馬 <キタノクロダラ 2.85kg>
長らく深海釣りを行っても、本種を見たのは同行者が2年前に1度釣ったのみでした。今後は更なる記録更新を狙っていきたいです



浅野 俊吾 <ヨゴレアオダイ 1.10kg>
引きがユメウメイロに似た感じですが、以前釣り上げた時よりも引きが強く、大物を感じさせるやりとりでした



木下 煙生 <アラ 2.00kg>
深いので糸を巻くのが大変でした

10LB OVER CLUB <10ポンドオーバークラブ>

<ヒラメ> FLOUNDER, olive / *Paralichthys olivaceus*

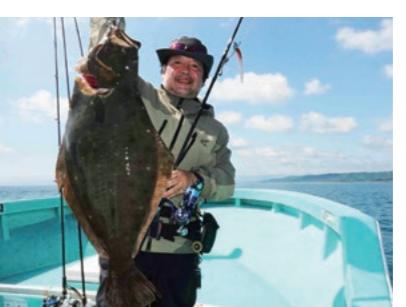
●M-6kg(12lb)クラス ●5.45kg ●茨城県鹿嶋沖 ●2025-6-19 ●福永 雄海 ●横浜ビルフィッシュクラブ ●第一進丸

<ヒラメ> FLOUNDER, olive / *Paralichthys olivaceus*

●M-10kg(20lb)クラス ●4.70kg ●北海道山越郡長万部町国縫沖 ●2025-7-7 ●山口 聰 ●レギュラー会員 ●ウエマルファクトリー



福永 雄海 <ヒラメ 5.45kg>
大きいサイズがよく釣れていったので、日本記録が狙えるかも…と出船。しかし1日目はなにもなく終了。
あまり悔しいので急遽翌日に再チャレンジ。昨日とは大違いでなぜか私だけ大型ばかり！ 海の神様ありがとうございます～！



山口 聰 <ヒラメ 4.70kg>
水深7m。ワインドで狙う最も面白い水深でこの素晴らしい魚体！ ファイトの一部始終が見られて最高だった！

METER OVER CLUB <メーター オーバークラブ>

<ソウギョ> CARP, grass / *Ctenopharyngodon idella*

●M-37kg(80lb)クラス ●103cm(又長) ●埼玉県新河岸川 ●2025-6-28 ●竹内 尚哉 ●レギュラー会員 CR



竹内 尚哉 <ソウギョ 103cm>
(事務局より:日本記録・淡水の釣りのソウギョと同じ魚です。コメントはそちらをご覧ください。)



 IGFA RULE SECTION

審査員資格試験 IGFA ルールクイズ正解発表

先ごろ実施いたしました、IGFA ルールクイズの正解を発表します。
資格の取得のみならず、記録申請を目指す方にとどめ、
理解しておいていただきたい内容が含まれています。
さまざまな釣りジャンルにわたるルール知識を養成しましょう！

A 共通問題

【問題 1】

80lbラインのバッキングラインを200m使用して、先端は20lbラインを30m接続して釣りをした。この場合で釣った新記録申請魚は20lbラインクラスへの申請となる。

正解=● 釣具の規定A.ラインおよびバッキング → 3.「バッキングの使用は許可される」とあります。

【問題 2】

普段は50cm程の魚を釣ることが多い為、IGFAが販売している専用メジャーを70cmにカットして使っていたが、100cmを超えるレンゲス新記録に該当する魚が釣れたので、不足部分を足して使用した。この方法はレンゲス記録申請に使用して問題ない。

正解=X オールタックル・レンゲスレコードに関するルールB.メジャー → 2.「メジャーが長すぎる場合はカットしてもよいが、つなぐことはできない。」とあります。

【問題 3】

電動モーターが装着されているリールで、記録申請出来る大型のカンパチを手巻きで釣った。リールにはモーターが付いているが、仕掛けの投入からファイトまで一度も電源を入れていないので帰港後に計測して記録申請をした。この方法は記録申請に問題ない。

正解=● 釣り具の規定E.リール → C.「リールにパワーアクセサリーが装着された状況下でベイトやルアーにストライクした魚は、そのアクセサリーが実際に使用されていたかどうかに問わらず、記録申請の対象とはならない」とあります。電源を抜けば使用可能か、IGFAに問い合わせたところ「電動機械部品がリールに組み込まれている場合、電源からプラグを抜くことができるかどうかにかかわらずファウルとみなされる。該当部分を完全に取り外して、リールを手巻きで普通に使うことができれば使用可能」との回答がありました。

【問題 4】

A氏がキャストした置き竿に大きなアタリが出たが、仕掛けを投入したA氏がたまたま不在だった為、同行していたB氏がフッキングして、戻ってきたA氏に渡した。記録申請に値するコイを釣ったので、JGFA会員であるA氏は、このコイを記録申請できる。

正解=X 釣りの規定1 → 「魚がベイトまたはルアーにストライクしたら、釣り人は他からの助けを借りることなく魚をフックにかけ、ファイトし、取り込まなければならない。」とあります。

【問題 5】

狙っていた魚が至近距離へ接近してきたので、急ぎルアーを振り込んで魚をストライクさせた。リーダー部はロッドティップから出でていない距離でのストライクだったのでリーダーでファイトして魚を取り込んだ。この魚を記録申請しても問題ない。

正解=X 釣りの規定4 → 「ファイトの大部分はシングルラインで行うことが前提である。ダブルラインやリーダーだけでファイトの大部分を行ってはならない」とあります。

B 選択問題(ビッグゲームの部)

【問題 6】

リーダーマンがようやくリーダーを掴んだものの、ギャフが届かない。ギャフマンはフライングギャフを投げて魚体に引っ掛け取り込んだ。フライングギャフは名前の通り、投げて使用して構わない。

正解=X 釣りの規定7 → 「魚にギャフをかける時、ギャフのハンドルは手に持ていなければなりません」とあります。

【問題 7】

効果的に魚を寄せるために、ボートの後ろからイワシのミンチを撒きながらトローリングを行った。この方法はIGFAルールとしても適切である。

正解=● 釣りの規定の失格となる行為6 → 「ホ乳動物の肉、血、皮またはその他の部分をチャム(寄せ餌)またはベイトとして使用してはならない。」と規定されているものの、鰯はホ乳動物ではないので問題ありません。

【問題 8】

カジキがヒットし、ラインが引き出された。ラインが引き出されている間はファイトしても無駄なので、ラインの出が止まってからロッドホルダーから竿を抜き、チェアに座りファイトした。この方法は、IGFAルールでも認められている。

正解=X 釣りの規定2 → 「ロッドをホルダーで固定している時に、魚がベイトまたはルアーにストライクしたら、釣り人はできるだけ速やかにロッドをホルダーから外さなければならない。」とあります。

【問題 9】

時化の中、ボートの揺れがきつく安全のために片手をボートの舷側に付けて、ロッドバットを舷側に付けてファイトしたが、IGFAルール違反にはならない。

正解=X 失格となる行為3 → 「魚とのファイト中にロッドホルダーを使う、船ペリやその他の物体にロッドをもたせ掛けたりする等の行為は禁止される。」とあります。

【問題 10】

カジキのランディングに際し、ギャフを用意し忘れた事に気が付いた。とっさの機転で首に掛けていたタオルを水に濡らしてビルに巻き付け、引っ張り上げた。魚体に傷がつかないこともメリットになるので、IGFAルールとしても適切である。

正解=X 釣り具の規定1・その他の用具4 → 「エンタングリング(魚を絡め取る)用具は、フックの有無にかかわらず禁じられている。ベイティングまたはフッキング、ファイティング、ランディングを含むいかなる目的のためにも使用してはいけない。」とあります。

(ルアー、淡水、岸釣り、磯釣り、沖釣りの部)

【問題 6】

魚とファイト中、不意に体勢を崩してしまいロッドが半分に折れてしまつたが、折れてしまつことによりポンピングが楽になり早く魚を取り込むことが出来た。この魚は、記録申請に適しているか。

正解=X 失格となる状況1 → 「ロッドが最低寸法より短くなったり、その性能をひどく減じるような方法で折れた時」とあります。

【問題 7】

仲間と数人で船に乗り、活きた魚を泳がせて釣りをした。隣の仲間とダブルヒットの状態となりファイト。大きな魚を取り込むことが出来たが隣の仲間のフックも飲み込んでいた。この魚は、記録申請ができるか。

正解=X 失格となる状況3 → 「一尾の魚が複数のラインにかかった、あるいは絡んだ時。」とあります。

【問題 8】

市販品のタイラバを使用するにあたり、フック配列がIGFAルールに適していない製品もあるため、自分でシングルフック一本にして作り直した。このタイラバを使用した場合、記録申請はできるか。

正解=● IGFAルールとアシストフック&タイラバ → 「①シングルフック2本までの使用が認められます。」とあります。IGFAルールに沿ったフック配列で作製、装着することは可能です。

【問題 9】

四国のある河口付近の海でスズキ釣りをしていたが、大型のアカメがヒット。無事に取り込み計測すると従来の記録を上回る大きさだった。使用したリーダー長は3mだったが、海で釣ったので、記録申請をしても問題ない。

正解=X アカメは海にも生息していますが、JGFAでは淡水魚のカテゴリーとなっているので、釣り具の規定C.ライン → 「すべてのラインクラスにおいてリーダーは1.82m(6フィート)以内とし、リーダーとダブルラインの合計長は3.04m(10フィート)以内であること」に則ります。

【問題 10】

流れの強い河川でシロザケ釣りをしていた。狙い通り記録級の大型をヒットすることが出来たが、魚に勢いよく下流へ走ってしまった。そのまま自分は動けず耐えていると、10m程下流で釣りをしていた友人がネットで取り込んでくれたので、記録申請をした。

正解=X 釣りの規定6 → 「岸釣りまたはウェーディングの釣りをしているアングラーの取り込みを助ける人は、リーダーを掴む、ネットで掬う、あるいはギャフを掛ける際、アングラーからロッド1本ぶん以内の距離にいなければならぬ」とあります。

(フライフィッシングの部)

【問題 6】

ソルトウォーターのシイラ釣りで、ドロッパーは2本まで使うことができる。正解=X 釣具の規定F. フライに「ドロッパー フライは、サケ科の魚(マス、グレイリング、サケ各種など)を釣る場合に限り使用可能とし…」とありますので、シイラ釣りには使えません。

【問題 7】

ショックティペットの長さは、両端にあるノットの内側を厳密に計測する。

正解=X 釣具の規定B.リーダーに「ショックティペットの長さは、フックのアイからクラスタティペットのシングル部分までを測る(クラスタティペットに接続するためのノット部分もショックティペットとみなされる)」とあります。

【問題 8】

フライフィッシングでは、冷凍のワカサギやキビナゴ、イワシミンチなどをチャム(寄せ餌)として使うことはできない。

正解=X 釣りの規定→7. に「ホ乳動物の肉、血、皮またはその他の部分をチャム(寄せ餌)として使用してはならない。」とありますが、他のものは禁止されていませんので、小魚やミンチを撒いて釣ることは禁止されています。

【問題 9】

先端強度が8ポンドと表記してある市販のテーパーリーダーは、4kgのティペットクラスにおける記録申請に問題なく使うことができる。

正解=X メーカーの表示強度が8ポンド=約4kgであったとしても、実際の試験による破断強度がそれを上回った場合は、その上のクラスの申請に格上げされます。

【問題 10】

重いシンキングラインを、キャストすることなくボートから真下に沈め、ラインを送り出して所定の層にフライを届けたあとにリトリーブを開始するよな釣り方は禁止されている。

正解=● 釣りの規定→3に「キャスティングやリトリーブは、通常の慣習に則り、一般的に受け入れられた方法で行わなければならない。」とあります。

IGFA RULE SECTION

ジュニアのラインクラス& ティペットクラス部門を新設！ 日本記録と世界記録に対応

IGFAで新たなカテゴリーが設立されたことに伴い、JGFAもIGFAの対象魚の中から、日本国内で記録が可能な魚種を対象とすることになりました。5月の審査会に申請されたものから、ジュニアラインクラス記録として正式に認定を開始しました。対象魚種は以下の通りです。

釣り方としては、成人と同じIGFAルールが適用されますが、唯一の違いは「ボート上の計測」が許容されていることです。

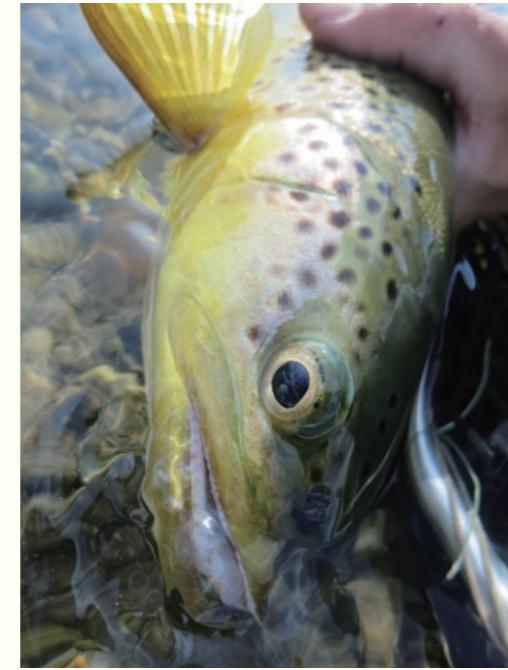
なお、ホームページのシステム変更にはお時間をいただくことになります。何卒、ご理解のほどをお願いいたします。

[海水]

ビンガ	ALBACORE / <i>Thunnus alalunga</i>
カンパチ	AMBERJACK, greater / <i>Seriola dumerili</i>
オニカマス	BARRACUDA, great / <i>Sphyraena barracuda</i>
カラワシ	LADYFISH / <i>Elops</i> spp.
ブリ	BURI (Japanese amberjack) / <i>Seriola quinqueradiata</i>
スギ	COBIA / <i>Rachycentron canadum</i>
マダラ	COD Pacific / <i>Gadus macrocephalus</i>
シイラ	DOLPHINFISH / <i>Coryphaena hippurus</i>
オヒョウ	HALIBUT, Pacific / <i>Hippoglossus stenolepis</i>
ヒレガカンパチ	JACK, almaco (Pacific) / <i>Seriola rivoliana</i>
スマ	KAWAKAWA / <i>Euthynnus affinis</i>
ヨコシマサワラ	MACKEREL, narrowbarred / <i>Scomberomorus commerson</i>
マダイ	MADAI / <i>Pagrus major</i>
オオニベ類	MEAGRE / <i>Argyrosomus</i> spp.
ツムブリ	RUNNER, rainbow / <i>Elagatis bipinnulata</i>
ヒラズキ	SEABASS, blackfin / <i>Lateolabrax latus</i>
スズキ	SEABASS, Japanese (suzuki) / <i>Lateolabrax japonicus</i>
メカジキ	SWORDFISH / <i>Xiphias gladius</i>
ギンガメアジ	TREVALLY, bigeye / <i>Caranx sexfasciatus</i>
カスミアジ	TREVALLY, bluefin / <i>Caranx melampygus</i>
ロウニンアジ	TREVALLY, giant / <i>Caranx ignobilis</i>
シマアジ	TREVALLY, white / <i>Pseudocaranx dentex</i>
マツダイ	TRIPLETAIL / <i>LoraLoracaesio surinamensis</i>
メバチ	TUNA, bigeye (Pacific) / <i>Thunnus obesus</i>
クロマグロ	TUNA, bluefin (Pacific) / <i>Thunnus orientalis</i>
イソマグロ	TUNA, dogtooth / <i>Gymnosarda unicolor</i>
カツオ	TUNA, skipjack / <i>Katsuwonus pelamis</i>
キハダ	TUNA, yellowfin / <i>Thunnus albacares</i>
カマスサワラ	WAHOO / <i>Acanthocybium solandri</i>
ヒラマサ	YELLOWTAIL, California / <i>Seriola lalandi dorsalis</i>

[淡水]

オオクチバス	BASS, largemouth / <i>Micropterus nigricans</i>
コイ	CARP, common / <i>Cyprinus carpio</i>
ソウギョ	CARP, grass / <i>Ctenopharyngodon idella</i>
チャネルキャットフィッシュ	CATFISH, channel / <i>Ictalurus punctatus</i>
シロザケ	SALMON, chum / <i>Oncorhynchus keta</i>
カラフトマス	SALMON, pink / <i>Oncorhynchus gorbuscha</i>
カムルチー・タイワンドジョウ	SNAKEHEAD / <i>Channa</i> spp.
ブラウントラウト	TROUT, brown / <i>Salmo trutta</i>
ニジマス	TROUT, rainbow / <i>Oncorhynchus mykiss</i>



餌釣りにおけるハリの使用について

IGFAは2024年9月に「餌釣りにおける2本ハリの使用ルール」を明確化しました。IGFAが提唱するスポーツフィッシングは、「一回に1尾の魚」と対峙するフェアなファイトが基本であり、複数のフックを使った仕掛けは、条件を満たさない限り記録対象外となります。JGFAではこの改定を受け、同年12月にルール概要と図解をホームページで紹介しています。しかしながら、2本ハリを使用した仕掛けの中には、構造によって記録申請が失格となるケースが出ています。こうした状況を踏まえ、仕掛けの適合・不適合の例を整理しました。記録申請時の失格を防ぐためにも、ご確認ください。

IGFAルールにあった釣具と仕掛け

下の図のような一般的な釣具&仕掛けでもIGFAルールに適合します。ぜひチャレンジを！



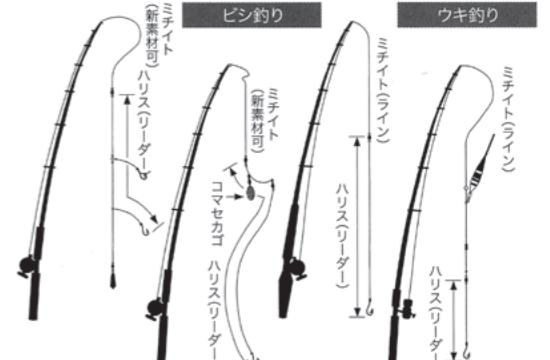
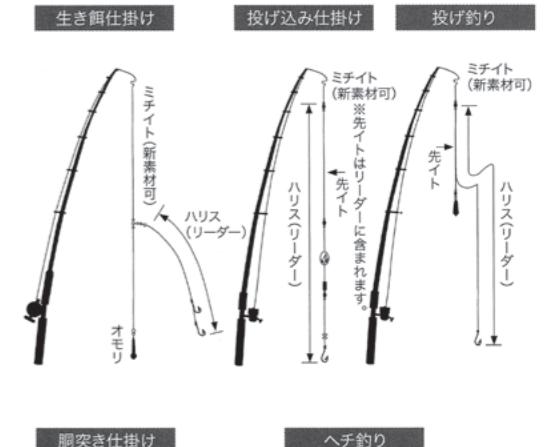
IGFAルールでは失格となる釣具・仕掛け(代表例)



電動リールやクッションゴムの使用は失格となります。
(ハリ数は2本までと決められています)



エサ釣りの場合、使えるハリはシングルフック2本まで。マゴバリに3本針を使うと失格となります。(シングルフックならOKです)



審査員資格試験の実施方法変更を検討しています！

ジャパンゲームフィッシュ協会は、対面形式の講座を開催する難しさやコロナウィルスの流行により、ここ10年ほど「IGFAルールクイズの受験」のみで審査員資格を提供してきましたが、近年におけるIGFAルールのひんぱんな変更と、オンラインツールの進歩を受け、新しいフォーマットの採用を検討しています。Zoomなどの会議ツールを使用した講習会を受講したあと、オンラインで提供されるIGFAルールクイズを受けていただく方向性です。

IGFAルールの確固とした理解と現場への適用を可能にするためには、やはり独習だけでは難しく、指導者による基礎からの説明が必要と思われます。これに関しては、メルマガ、会報、ホームページなどでアップデートいたします。審査員になりたいのみならず、IGFAルールを理解したいと思う一般アングラーに対しても開かれたセッションになるよう設計するつもりです！



JAPAN INTERNATIONAL BILLFISH TOURNAMENT
PRESENTED BY JAPAN GAME FISH ASSOCIATION

第47回下田国際カジキ釣り大会 友好と、困難ゆえの愉悦

2025年7月24(木)~27日(日)

今年で47回目を迎えた国際カジキ釣り大会(Japan International Billfish Tournament)は、水温が28°Cを超えるという点においては近年とほぼ同様の傾向、穏やかな晴天に恵まれた。しかし、肝心の黒潮は大蛇行し、下田沖を大きく迂回したまま。

カジキを呼び込んでくれる潮は差し込んでいない。

トーナメント開催環境としては近年稀に見る難しいものであった……

写真:Perfect Boat & Team 韋駄天

▶1日目(7/25)

エネルギーに満ちたスタートフィッシングの掛け声とともに、各艇は狙いのポイントへ。海況を反映し、近年になく長い沈黙の時間が続いた後、09:32に最初のカジキのヒットコールがGOD MAKE(神作雅之キャプテン)から届く。このファイトは59分に及び、そのまま今大会

のファーストマーリンとなる106.4kgのクロカジキのキャッチとなった。

この9時台以降、時間当たりのヒットコールが4回程度、最終的に計15回しか聞こえないという、厳しい初日となつた。その中でも、10時台にTOA LINEがT&R(タグアンドリリース)でマカジキ、11時台に卓丸(チーム愛晃丸&卓丸)がT&R、13時台に韋駄天(HOOKERS

FC)がT&Rをクロカジキに決め、14時台にはふじこうまるがクロカジキ125.6kgを、16時台にSKB(team SKB)がキャッチした。Team SKB(酒部圭司キャプテン)は本日の釣果のなかで最も細い30ポンドラインを使用し、3時間40分を掛けてクロカジキ127.8kgキャッチを記録して、初日の最大魚賞も含め305.6ポイントを獲得、暫定首位と



今年も下田にスポーツフィッシャーが大集結した。思い思いの戦略を胸に、スタートフィッシングに備える

なった。2日目以降も天候の大きな変化はなく、晴天が見込まれる。この例年より厳しい環境の中で、いかに高ポイントを上げられるかは、運とともに各艇の腕の見せ所となる。

▶2日目(7/26)

第47回国際カジキ釣り大会2日目は、快晴・微風でのスタート。昨日の結果を元に各艇が何処に向かうかを熟慮し、「ヒョータン」を筆頭に様々なポイントに向かっていった。初日の結果をふまえた狙い先が明確であったためか、ストライクコールは昨日よりも早く07:45にBANANA FLEETから。ここから8時台まではアタリが昨日よりも多く続い

たが、念願のカジキ釣果はKona Game Fishing Club(松下正春キャプテン)がクロカジキ推定80kgにタグ&リリースを09:17に決めたのが最初となつた。そこから立て続けにBull Fighter、アクセル、フェアリーと、タグ&リリースやキャッチが続いた。

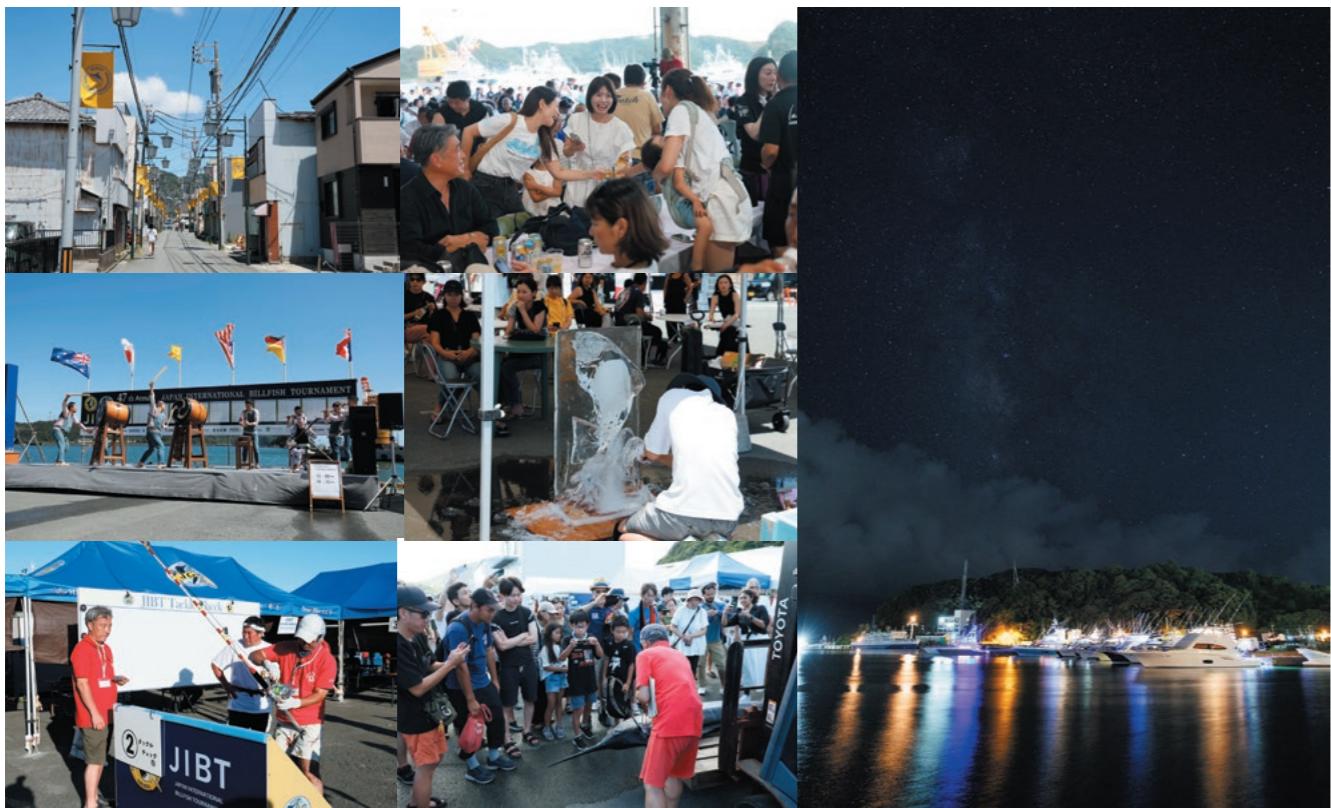
この後は1時間ほど動きがなく、10時台になってからストライクコールがふたたび出始め、10:21にはACEがファイト時間5分でバショウカジキにタグ&リリース。チームソルティーは10:43にクロカジキにタグ&リリースを決めた。それからは昨日と同じようなペースでヒットコールが散見され、釣果となったのはコアドリームのクロカジキ

77.6kgだった。なお、最後までファイトが続いたWHITE BEACT(白濱淳キャプテン)は、推定200kg超のクロカジキをランディング直前にフックオフし、涙を飲む結果となつた。

最終的には20ストライク・7尾と昨日を上回り、クロカジキ・マカジキ・バショウカジキが釣れた。天候が安定している状態が続いているなか、釣果が突出しているチームは今のところない。どのチームにも優勝の可能性がある状態で、トーナメント最終日に突入する。

▶3日目(7/27)

3日目も天候は申し分なく、どのチームが優勝するか分からない混戦模様



下田の町にカジキの旗が翻る。夏の大きなお祭りという雰囲気を、ビルフィッシャーたちも楽しむ



厳しい条件下で競う。釣れた魚はタグ&リリースするか？持ち帰るか？スコアに係わってくる重大な判断だ

の中スタートとなった。今年は表彰式の時間が早まったこともあり、午前6時00分にスタートフィッシング、最初のヒットコールは6時23分チームエリカ（神行武彦キャプテン）から寄せられたがあえなくフックオフ。しかし7時10分にはチームヤマハ（八木美教キャプテン）からヒットコールが届き、約35分のファイトのす

え、推定80kgのクロカジキにタグ&リリース成功の報告が届いた。

最終日は午後1時00分で競技終了となる。どのチームにも優勝のチャンスがある混戦模様。まだ2尾の釣果をあげたチームはおらず、30lbラインを使い勝負に出るチーム、太めのラインで2尾めを確実にとりたいチームとギリギリまで結

果が分からない。日に日に釣果は増えてきたものの、他魚のヒットも少なく、ここぞという時合で「カジキヒット」が時々届くタイトな状況だった。そんな中、本日の釣果はT&R8尾となった（IGFAルールに抵触したエラーを除く）。

最終結果としては、3日目にクロカジキ2尾に50lbでT&Rを決めたチーム



優勝はチームヤマハ。最終日にクロカジキ2尾をタグ&リリースするという快挙だ



チャーターボートキャブテン賞は、最終日にクロカジキにタグを装着して再放流した番匠高宮丸の小澤長夫船長

No.97のチームヤマハ（八木美教キャプテン）が優勝となった。数少ないヒットを確実に釣果に結びつけた成果であろう。2位には1日目に30lbラインでクロカジキ127.8kgをキャッチし最大魚ポイントも付いたteam SKB、3位には2日目に30lbラインでクロカジキのT&Rに成功したKona Game Fishing Clubが入った（同ポイントの場合は時刻の早い方優位）。

表彰式は、まどが浜海遊公園にてガーデンパーティー形式で実施。選手約650名、関係者約100名、合計750名を越えるパーティーとなり、爽やかな風の中で友好を深め、栄誉を称えあつた。

★参加チーム：115チーム、選手数：673名

★ストライク数：54（カジキのみ）

★今大会釣果総尾数：19尾（クロカジキ15、マカジキ3、バショウカジキ1）
タグ&リリース：15尾 キャッチ：4尾

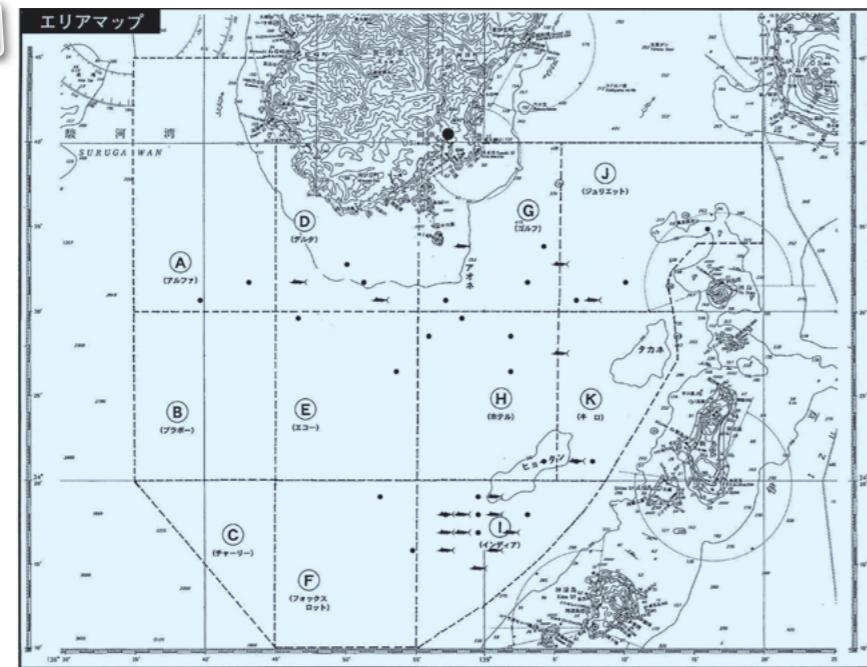
主 催：NPO 法人 ジャパンゲームフィッシュ協会（JGFA）
後 援：農林水産省、静岡県、下田市、下田海上保安部、静岡県漁業協同組合連合会、静岡県観光協会ほか

賛 助：伊豆漁業協同組合、いじま漁業協同組合、神津島漁業協同組合
力：シダックス（株）、伊豆急行（株）、河津建設（株）、下田ポートサービス（株）、神新汽船（株）、伊豆クルーズ、まちおこしカジキサポートクラブ、マリンフェスタ下田実行委員会

特別協賛：株式会社一富士興業、グローブライド株式会社、株式会社コーニッシュ、酒部建設株式会社、株式会社スタートトゥディ、東明工業株式会社、日本セーフティー株式会社、HATTERAS YACHTS JAPAN、株式会社パリバス、古野電気株式会社、株式会社安田造船所、ヤマハ発動機株式会社、株式会社ユーズカンパニー（社名50音順）

賛：有限会社エス・エス・ピー、有限会社サイプレストレーディング、医療法人社団 せいおう会 うぐいす谷健診センター（社名50音順）

47th JIBT SHIMODA



●【団体総合】(表彰3位まで) T&R:タグ&リリース

順位	チームNo.	チーム名	合計ポイント	備考(日時・魚種・ライン・重量ほか)
1位	97	チームヤマハ	390	3日目クロカジキ推定80kgと110kgT&R、50lbライン
2位	53	team SKB	305.6	1日目クロカジキキャッチ127.8kg、30lbライン、最大魚賞50pt付き
3位	63	Kona Game Fishing Club	260	2日目クロカジキ推定80kgT&R、30lbライン、同ポイントで最初(2日目09:17)に達成

●【個人総合】(表彰3位まで) T&R:タグ&リリース

順位	チームNo.	チーム名	アングラー名	合計ポイント	備考(日時・魚種・ライン・重量ほか)
1位	53	team SKB	谷岡 篤史	305.6	1日目クロカジキキャッチ127.8kg、30lbライン、最大魚賞50pt付き
2位	63	Kona Game Fishing Club	山崎 大介	260	2日目クロカジキ推定80kgT&R、30lbライン、同ポイントで最初(2日目09:17)に達成
3位	15	チーム ソルティー	前原 圭輔	260	2日目クロカジキ推定75kgT&R、30lbライン、同ポイントで2番目(2日目10:43)に達成

●【タグ&リリース賞】(1位のみ:チーム)

順位	チームNo.	チーム名	合計ポイント	備考(日時・魚種・ライン・重量ほか)
1位	115	チームヤマハ	390	3日目クロカジキ推定80kgと110kgT&R、50lbライン

●【西川龍三賞(最大魚賞)】(表彰1位のみ・個人)

順位	チームNo.	アングラー名	チーム名	重量	備考(日時・魚種・ライン・重量ほか)
1位	53	谷岡 篤史	team SKB	127.8kg	7月25日クロカジキ30lbライン

●【ファーストマーリン賞】(1位のみ・個人)

順位	チームNo.	アングラー名	チーム名	ランディング(またはT&R) 日時	魚種(重量/ライン)
1位	66	井上 智之	GOD MAKE	7月25日 10:31	クロカジキ106.4kgキャッチ、50lbライン

●【チャーターボートキャプテン賞】(表彰1位のみ)

順位	船名	船長名	ポイント	乗船チーム名	備考(日時・魚種・ライン・重量ほか)
1位	番匠高富丸	小澤 長夫	195	ビルG	3日目クロカジキ推定70kg T&R、50lbライン、アングラー林田 敏誠
2位	該当なし				
3位	該当なし				

●【ベストセーフティ賞(下田海上保安部長賞)】

チームNo.	チーム名	備考
本部艇	天光丸	大会期間中に問題無く安全管理達成

ASSOCIATE MEMBER LIST

贊助会員メンバーズ・リスト



ユニコーン エンジニアリング株



賛助会員募集

「いい釣りをいつまでも。」をスローガンに、スポーツフィッシングの普及を目指すJGFAをぜひサポートしてください。

- 特典 1.イベント後援 JGFA後援規定に基づくイベントをサポートいたします。
- 2.市場調査への協力 会員に向けて商品テスト・モニター・アンケート実施時にご協力します(諸費用実費)。
- 3.会員登録 貴社の代表者・担当者2名をJGFAおよび国際的な釣り団体IGFAの会員として登録。個人会員と同等の特典を得られます。日本記録を狙ってみてはいかがでしょうか。
- 4.各イベント参加への優遇 JGFAフィッシングキャンプのブース出展料無料など、主催イベントへの参加を優遇いたします。
- 5.広告および紹介 ○会報「JGFA NEWS」への社名広告掲載 ○イヤーブック「賛助会員紹介ページ」に貴社を掲載 ○JGFA公式サイトにバーリングを掲載 ○会員にむけてDMサービスの協力(諸費用実費)

会費 1口 100,000円(1口以上)
備考 代表者と担当者以外で、会員登録を希望する企業内の方は、年会費6,000円を加算いただければクラブメンバーと同様の特典が得られます。

問い合わせ先: JGFA事務局 ☎03-6280-3950

